

日本における食育と食生活

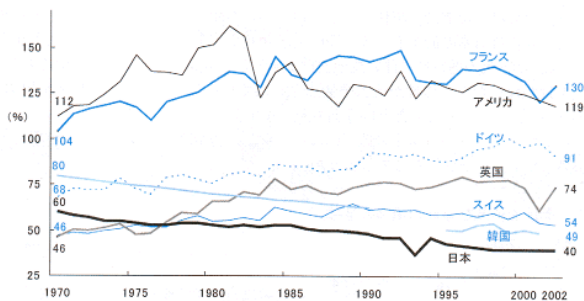
オリビア ドゥプイ

キーワード： 日本、自給自足、食育、消費者行動、食品安全保障、フードマイル、
フードデザート、スロフード

1. はじめに

日本は総食料供給の60%を輸入し、先進国の中でも最も食料自給率の低い国であり、環境面や食文化のみならず国家の食料安全保障においても危険な状況にある。これに対処するために政府は食料・農業・農村基本法を制定した。そこでとられている戦略の一つに諸外国で見られる食事指針にヒントを得た国民栄養学習プログラムがある。日本の特異な地理的条件から食料自給率の改善には難しい問題があるので、個人の健康状態の改善を超えて食育に関する目標を定め、さらには健康な国づくりの目標を達成する必要がある。

国々の自給自給率 (1970-2002)



(2002年、農林水産省)

2. 研究の目的

消費活動の変化を伴うことなく、外国食品への高依存体質が続く限り、食料自給率は低いままであり、個人においても国全体で見ても健康な状態を日本が保ち続けることは難しい。本論文の狙いは、栄養に関して十分な知識を持った消費者が食料自給率の政府目標に与える影響を明らかにすることである。現在の食生活を明らかにするために、食品の選択や調理に関する情報を集めるために、中規模事業所の労働者を対象としたアンケート調査を行った。

3. 結論

この国の食料自給率目標の特色と消費者行動に影響を及ぼしてきた他の国の教育プログラムの十分とは言えない成果を考慮し、本論文では、日本の消費者が食卓に日々の食事を載せているばかりでなく、国の未来をも載せていることを示しながら、食育の歴史、現状、将来を考察する。